

ムギ類の赤かび病は防除と観察が重要

農作物検査規格では、麦類の赤かび被害粒は10,000粒中に4粒以内となっています（赤カビ粒混入率0.0%）。赤かび病はムギの開花期頃の高湿多雨で多発し、登熟後半に発病すると選別後も残りやすくなります。適期防除で発病を抑え、こまめな圃場の観察で混入防止に努めましょう。

5月の気温は高い予想で、赤かび病に注意が必要です。

1 防除時期

防除
適期

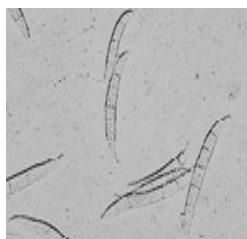
必ず2回防除を行いましょ

1回目は出穂5日後の開花始期、2回目は1回目の10日後



赤かび病被害（穂と粒）

赤かび病の被害部はサーモンピンクで表面は粉っぽい。
※低温によるアントシアニン（色素）は赤紫色で、表面につやがある。



分生孢子

分生孢子（大型分生子）は細長い三日月型で隔膜5～6のものが一般的である（例外有）。

2 大麦防除薬剤

小麦は登録内容が異なるので確認する

薬剤名 (RACコード)	希釈倍数	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
トップジンM粉剤DL (1)		4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布
トップジンM水和剤 (1)	1,000～ 1,500倍	60～150L/10a	収穫30日前まで		散布
トップジンMソル (1)	無人航空機 8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで		無人航空機による散布※
トリフミン水和剤 (3)	1,000～ 2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
ストロビーフロアブル (11)	2,000～ 3,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布
チルト乳剤25 (3)	1,000～ 2,000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回	散布
	無人航空機 8倍	0.8L/10a			無人航空機による散布※
ワークアップ粉剤DL (3)		3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
ワークアップフロアブル (3)	無人航空機 10～24倍	0.8L/10a			無人航空機による散布※
シルバキュアフロアブル (3)	2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布
	無人航空機 16倍	0.8L/10a			無人航空機による散布※

※ 無人航空機とは無人ヘリおよびドローンのことを指します

令和4年度農作物病害虫防除指針（福井県）が県HPから閲覧できます

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>

◇◇◇ 最新の農薬登録情報 (<http://pesticide.maff.go.jp>) を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室 連絡先 0776(54)5100

福井県病害虫防除室 🔍 検索

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>
QRコードをスキャンしてください →

